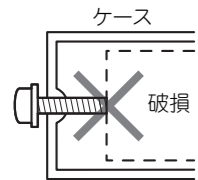


取り付けの前に知ってほしいこと

■取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



■取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態のよい位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

- 両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

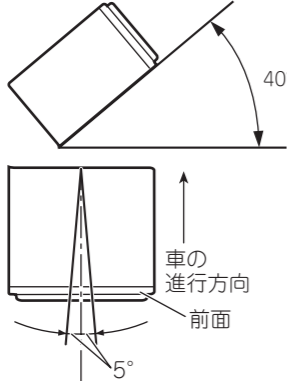
ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付けの説明に従って正しく取り付けてください。
- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - *フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - *FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
- それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

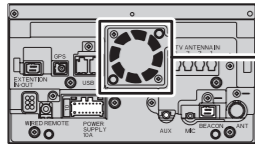
ナビゲーション本体の取り付け

■取り付け上のご注意

- 本機の性能を十分に発揮するために、できるだけ水平に取り付けてください。また、取り付ける車両の特性上、取り付け角度が傾いてしまう場合は、水平に対して上の傾き 40 度以内の角度で取り付けください。左右の傾きは車の進行方向に対してナビゲーション本体の前面が± 5 度以内の角度で取り付けてください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して取り付けてください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。
- 放熱を妨げないために、下図の部分のを塞がないように配置してください。



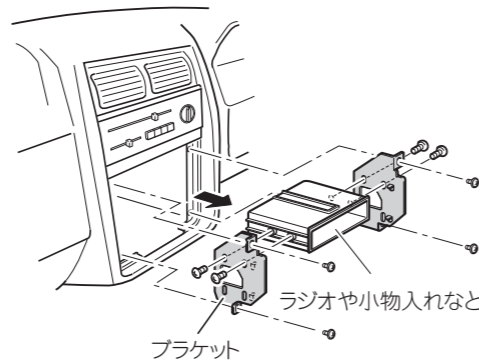
この部分を塞がないでください。

■取り付けのポイント

取付キットを別売しています

- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「ADT-N979 II」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- 本機に「ADT-N979 II」を使用する場合は、上部にすきまができるようにパネルを上方向に寄せて取り付けてください。パネルを固定する際は、左右のみテープ留めを行い、上下にはテープを貼らないでください。
- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意しておりますので、販売店にご相談ください。

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

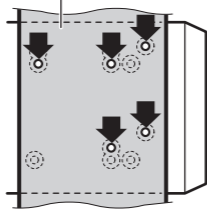


注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

2 ネジ留めする位置を確認する

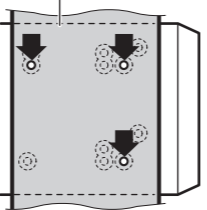
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



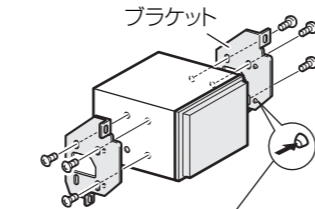
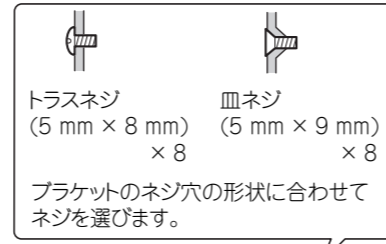
日産車の場合

日産車ブラケット



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ 4 か所（または 3 か所）ずつ、付属のネジでネジ留めして、元どおり車に取り付けます。

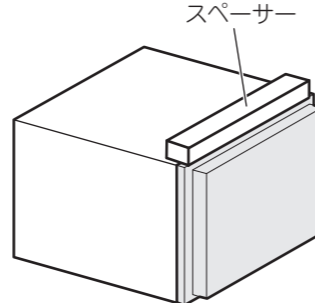


車両側のブラケットの凸部やツメが邪魔になり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。
* 作業の際には安全に十分ご注意ください。

注：付属のネジ以外は使用しないでください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。

■ナビゲーション本体取り付け後のご注意

ナビゲーション本体を取り付けたあと、車両との間にすきまがある場合は、ナビゲーション本体にスペーサーを貼ってすきまをふさいでください。なお、スペーサーを貼る手順は、車両によって異なります。



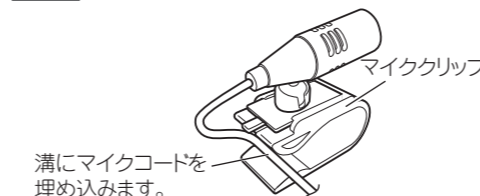
ハンズフリー通話用マイクの取り付け (AVIC-MRZ009)

■取り付け上のご注意

ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー（反響音）を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

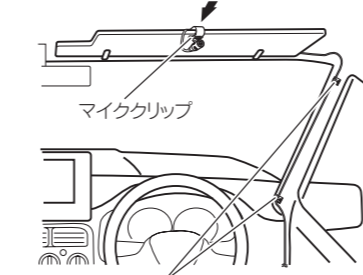
■サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップの溝にマイクコードを埋め込む



2 サンバイザーにマイククリップを挟み込み、マイクを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、通話相手側へ音声が届きにくくなります。

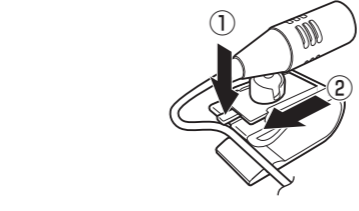


市販のクランパーなどで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。

■ステアリングポストに取り付ける場合

1 マイククリップを取り外す

ステアリングポストに取り付ける場合は、マイククリップを取り外します。



2 ステアリングポストにマイクを取り付ける

ステアリングポストに付属の両面テープで貼り付けます。



■マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイクの可動部を矢印の方向に動かして調節します。



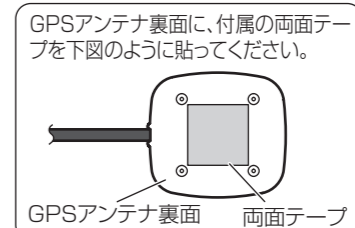
GPS アンテナの取り付け

■取り付け上のご注意

- 付属の GPS アンテナは車室内取付専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売の GPS アンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5 m）をお使いください。
- GPS アンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPS アンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPS アンテナの取り付けには、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPS アンテナは、ナビゲーション本体から 30 cm 以上離して設置してください。また、余った GPS アンテナコードをまとめて置くと、ナビゲーション本体から 30 cm 以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感が低下する場合があります。
- GPS アンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

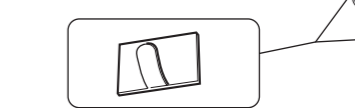
■取付例（ダッシュボード上）

車室内のなるべく水平な場所でアンテナがウィンドウの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPS アンテナを金属シートの上に貼り付けます。アンテナの取り付け位置は [接続状態画面] を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。



GPSアンテナ裏面に、付属の両面テープを下図のように貼ってください。

GPSアンテナ
両面テープの保護シートをはがして貼り付けます。



金属シート
必ず使用してください。
裏面の保護シートをはがして貼り付けます。

クランパー×3
クランパーで要所を固定しながら、アンテナコードを引き回します。

フィルムアンテナの取り付け

■取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
※保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、細目を定める告示第195条第5項第3号をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けないでください。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けないでください。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- 本書では、フィルムアンテナの取り付け前に車内の内張りを取り外すよう説明していますが、ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両の場合は、絶対にピラーを取り外さないでください。フロントエアバッグの誤動作などの原因となり大変危険です。ピラーを取り外さずにフィルムアンテナを取り付ける方法について、詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなることがありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテープなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮留めして、エレメントとアンブが貼り付けられることを確認してください。

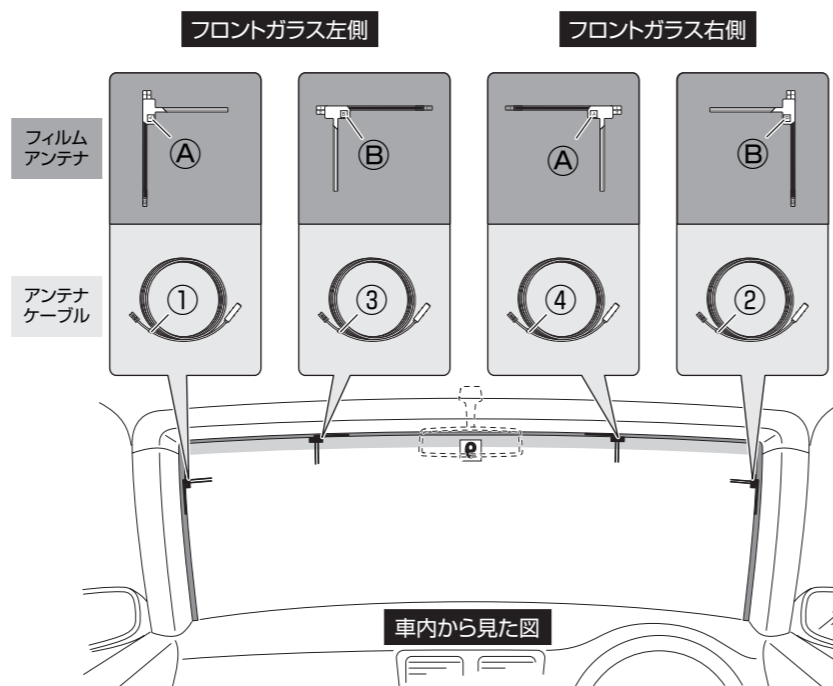
- フィルムアンテナのフィルムやアンブの裏シートをはがしたあとは、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから10 cm以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる時は十分な曲げ角度（半径15 mm以上）を確保してください。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。必ずアンテナケーブルおよびフィルムアンテナを仮留めし、アンテナケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

■貼り付け位置について

フィルムアンテナは、㉔、㉕の2種類、フィルムアンテナケーブルは①、②、③、④の4種類があり、組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。それぞれを組み合わせる下記の位置に貼り付けてください。

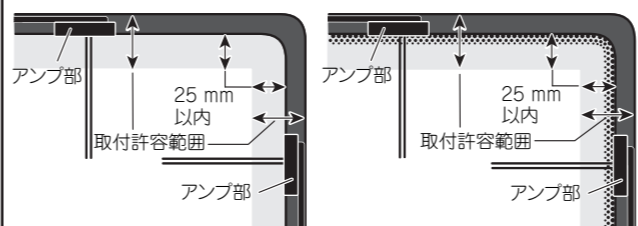


⚠️ 必ずお守りください

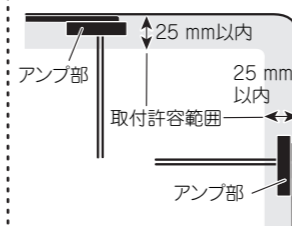
運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「アンブ部の貼付許容範囲」および「エレメントの貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲

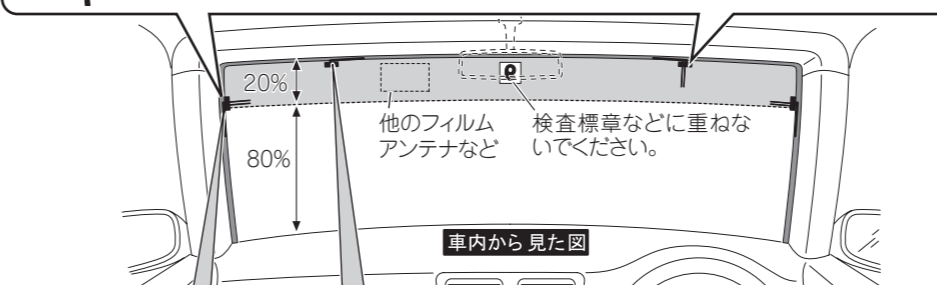
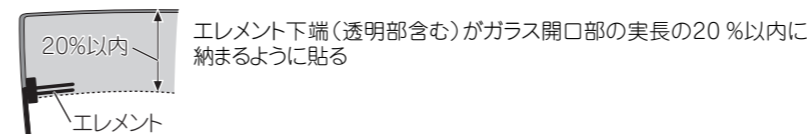
■セラミックライン有り



■セラミックライン無し

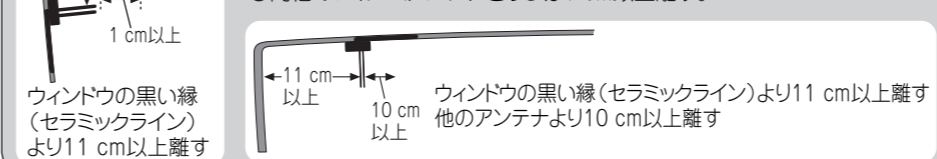


エレメントの貼付許容範囲



取り付け推奨範囲について

- フロントガラスのウィンドウの黒い縁（セラミックライン）より11 cm以上離す。
- 他のアンテナより10 cm以上離す。
- 同梱のフィルムアンテナどうしは1 cm以上離す。

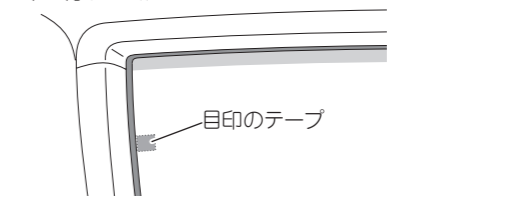


■フィルムアンテナを貼り付ける

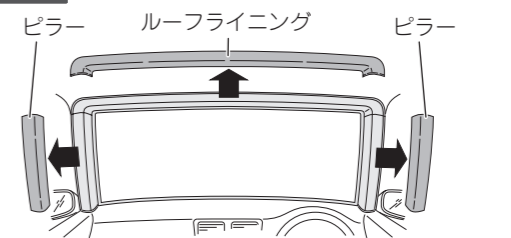
フィルムアンテナは㉔用で説明しています。

1 フィルムの仮位置を決める

フィルムアンテナの貼り付けの際、「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



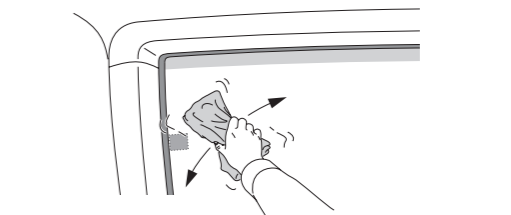
2 車内の内張り（ピラー、ルーフィニングなど）を取り外す



3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。

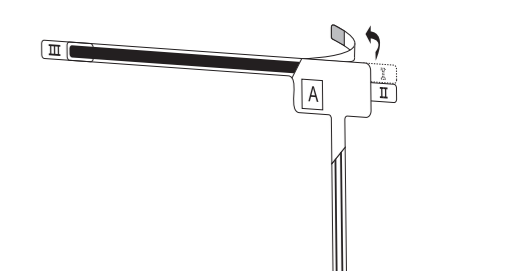


注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 セパレーター I をはがす

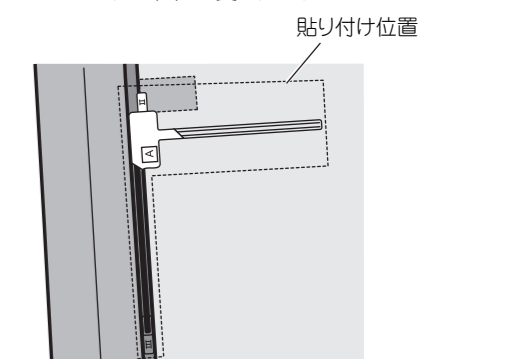
タグを持ってセパレーター I をゆっくりはがします。



※セパレーター I をはがしたあとは、粘着面に触れないでください。

7 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、フィルムに空気が入ったり、シワが寄らないようにゆっくりと端から貼り付けます。また、一度貼り付けたフィルムをはがしたり位置を変えたりすることはできません。

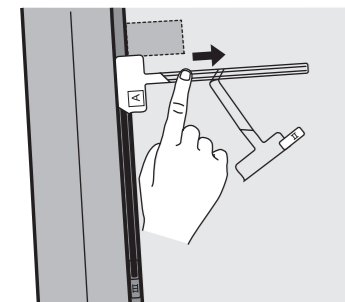


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

※ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

8 セパレーターⅡをはがしながらエレメントを貼り付ける

指でエレメントをガラス面に押しつけながらセパレーターⅡをはがしてください。

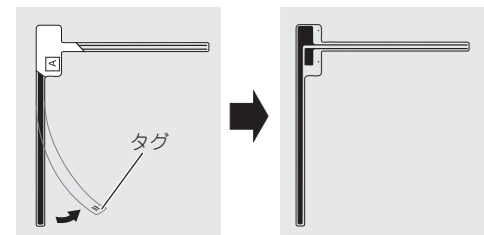


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温くなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

※手順 11 でアンブを貼り付ける部分には触れないでください。

9 残りのフィルムアンテナも同様に貼り付ける

エレメントがガラス面に貼り付いていることを確認しながら、タグを持って保護フィルムⅢをゆっくりはがします。

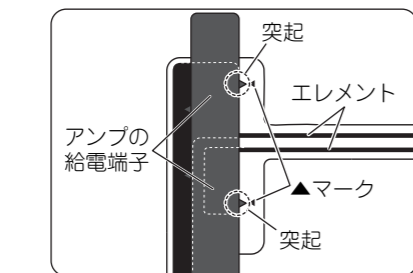
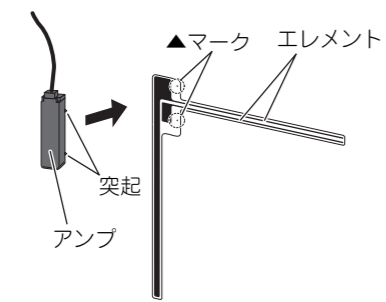


エレメントだけが貼り付く

※エレメントが保護フィルムⅢと一緒にはがれる場合は、保護フィルムⅢを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

11 アンブをエレメントに貼り付ける

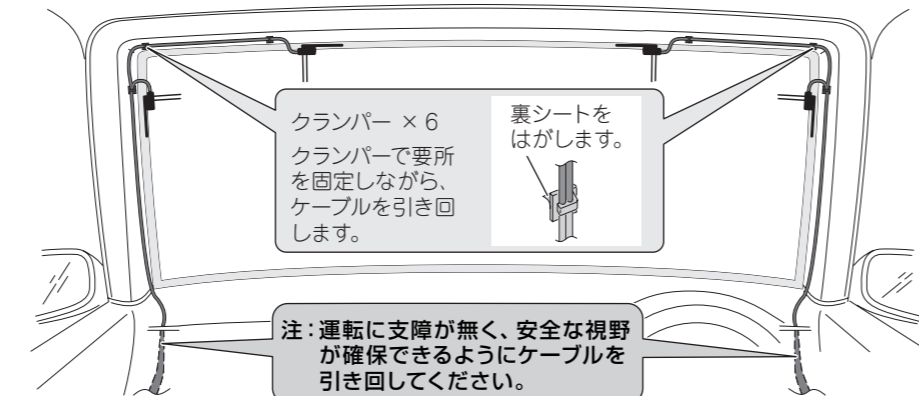
アンブの裏シートをはがして、エレメントの給電端子接触部の▲マークと、アンブの給電端子の突起を合わせるように貼り付けます。組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。アンテナケーブルにある番号を確認のうえ、手順 12 に記載しているイラストどおり貼り付けてください。



注：フィルムアンテナの▲マークとアンブ部の突起を合わせないと、受信できません。

注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

12 ケーブルを引き回す



注：運転に支障が無く、安全な視野が確保できるようにケーブルを引き回してください。

注：危険ですので、運転席の足元付近は、配線を引き回さないでください。

13 内張りを元に戻す

注：アンブのケーブル根元部に負荷がかからないように注意してください。

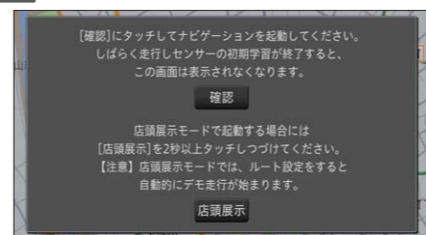
接続・取り付けの確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

1 車のエンジンをかける



2 次の画面が表示されたら確認にタッチする

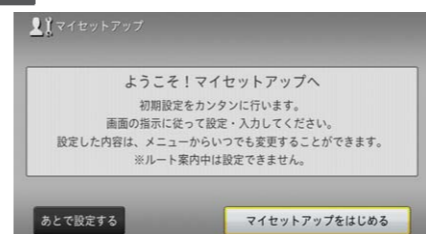


メモ

●この画面は、初期学習が完了していないときにエンジンをかけると表示されます。

注：店頭展示にタッチしないでください。タッチしてしまった場合は、一度車のキーを抜いてからエンジンをかけ直してください。

3 次の画面が表示されたら、あとで設定するにタッチする



4 地図画面が表示されたら「メニュー」ボタンを押し、「情報—システム情報—接続状態」の順に操作する



5 接続状態を確認する (※次ページ)



メモ

●▶▶次ページ、◀◀前ページでページ送りができます。

6 接続状態を確認したら、「現在地」ボタンを押す

■接続状態画面の見かた

車速パルス
車速信号入力(ピンクリード線)の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発音音が出て、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速(時速5 km程度)で行ってください。

電源電圧

車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に11V~15Vの範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。なお、表示誤差(±0.5V程度)があるため、この表示は参考値です。

バック信号

バック信号入力(紫/白リード線)の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーをR(リバース)の位置からR(リバース)以外の位置にするとLOWからHIGH、またはHIGHからLOWに切り換わります。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキスイッチ(若草色リード線)の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると[OFF]、かけ直すと[ON]が表示されます。

GPS アンテナ

GPS アンテナの接続状態と受信状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合は[未接続]が表示されます。その右側に表示されるアンテナマークでGPS アンテナの受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で2本以上バーが表示されていれば良好です。

測位状態

現在の測位状態(3次元測位/2次元測位/未測位)が表示されます。その右側には測位に使われている衛星(橙色)と受信中の衛星(黄色)の数がイラスト表示されます。3つ以上の衛星の電波を受信すると現在地の測位が可能になります。

通信モジュール

通信モジュールの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合は[未接続]が表示されます。

取付位置

ナビゲーション本体の取り付け状態を確認できません。必ずエンジンかけた状態で停車して確認してください。停車時に[振動許容範囲外]が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付け、停車時に[OK]が表示されるのを確認してください。また走行後に[取付角度許容範囲外]が表示された場合は、ナビゲーション本体の取付角度が許容範囲外です。販売店にご相談ください。

Bluetooth 機器 1/2 (AVIC-MRZ009)

本機に登録したBluetooth 機器*1(1台目/2台目)の接続情報(接続機器名、Bluetooth デバイスアドレス、使用プロファイル、電波強度*2)が表示されます。

※1 Bluetooth 機器の登録について、詳しくは「取扱説明書」-「お使いになる前に」をご覧ください。

※2 ナビゲーション本体とBluetooth 機器間の電波強度(リンク強度)を示します。現在地画面やAV ソース画面右下に表示されるBluetoothのアンテナマークは、ハンズフリー接続しているBluetooth 機器の基地局からの電波の受信強度を示します。

ETC ユニット

ETC ユニットの接続状態を確認できます。必ずセットアップしてから確認してください。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[未接続]、エラーがある場合はエラー番号が表示されます。

車載器番号

ETC ユニット(別売)の番号が表示されます。ETC ユニットが正しく接続されていない場合は表示されません。

カード有効期限

現在接続中のETC ユニットに挿入したカードの有効期限が表示されます。ETC ユニットが正しく接続されていない場合や、ETC ユニットの機種によっては表示されません。

ビーコンユニット

ビーコンユニットの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[未接続]が表示されます。

通信モジュール

通信モジュールの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[未接続]が表示されます。

バックカメラの設定を行う

本機にバックカメラを接続した場合は、カメラ設定を行ってください。

1 「メニュー」ボタンを押し、設定・編集→システム設定→バックカメラ設定にタッチする



2 各項目を選び、設定を行う

バックカメラ設定	
バックカメラ入力	OFF
バックカメラ切替極性	HIGH
バックカメラ画質調整	-
バックカメラ調整	-
駐車アシスト線表示	ON

バックカメラ入力

本機にバックカメラを接続したときに設定します。

ON	本機にバックカメラを接続したとき。
OFF	バックカメラを接続していないまたは一時的に使用しないとき。

バックカメラ切替極性

本機にバックカメラを接続したときに車のバック信号の極性に合わせて設定します。

HIGH	接続状態画面で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が[HIGH]になる車両の場合はこちらを選びます。
LOW	接続状態画面で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が[LOW]になる車両の場合はこちらを選びます。

バックカメラ画質調整

バックカメラの画質を調整します。



黒の濃さ	「白」にタッチすると薄くなり、「黒」にタッチすると濃くなります。
コントラスト	「低」にタッチすると白黒の差が小さくなり、「高」にタッチすると白黒の差が大きくなります。
明るさ	「暗」にタッチすると暗くなり、「明」にタッチすると明るくなります。
色温度	「赤」にタッチすると暖色系が強くなり、「青」にタッチすると寒色系が強くなります。
色の濃さ	「淡」にタッチすると淡くなり、「濃」にタッチすると濃くなります。
色あい	「赤」にタッチすると赤が強くなり、「緑」にタッチすると緑が強くなります。

メモ

- 車のライトに連動して昼(☀)と夜(🌙)の設定を自動で切り換えます。
- 「色温度」は、LEDバックライトの経年劣化などの理由で、本機のモニターに表示している映像と実際の映像の色味に誤差が生じた場合に調整します。
- 「黒の濃さ」、「コントラスト」、「明るさ」の設定は、昼(☀)と夜(🌙)で別々に設定登録できます。

バックカメラ調整

駐車アシスト線の調整をします。詳しくは、「駐車アシスト線を調整する」をご覧ください。

駐車アシスト線表示

駐車アシスト線の表示 / 非表示を設定します。

ON	駐車アシスト線を表示します。
OFF	駐車アシスト線は表示しません。

3 各項目を設定したら、終了にタッチする

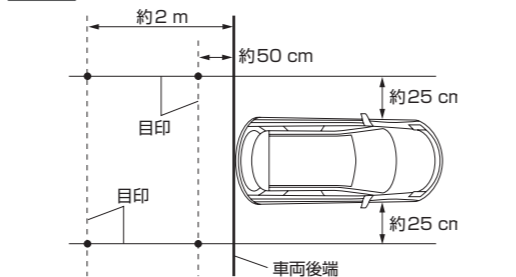
駐車アシスト線を調整する

駐車アシスト線の表示位置を調整します。

メモ

- あらかじめ駐車アシスト線の表示を「ON」にしておいてください。→前ページ
- バックカメラの装着位置によっては、駐車アシスト線が画面内に収まらない場合があります。

1 車両の幅+両側約25 cm、車両後端から後ろ側へ+約50 cmと+約2 mの位置にガムテープなどで目印をつける



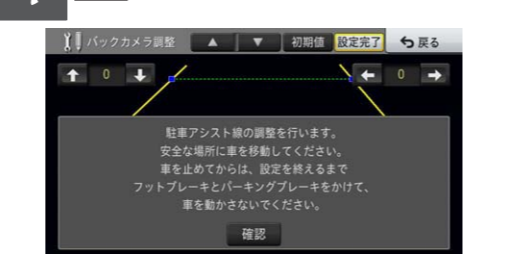
2 「メニュー」ボタンを押し、設定・編集→システム設定→バックカメラ設定にタッチする



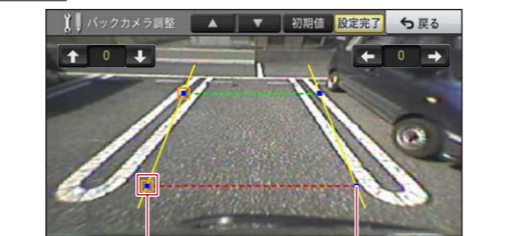
3 バックカメラ調整にタッチする

バックカメラ設定	
バックカメラ入力	ON
バックカメラ切替極性	HIGH
バックカメラ画質調整	-
バックカメラ調整	-
駐車アシスト線表示	ON

4 確認にタッチする



5 カーソル位置を選択してポイントを調整する



	カーソル位置	ポイント
▲/▼	現在のカーソル位置の調整結果を保存し、赤(L)⇄赤(R)⇄緑(L)⇄緑(R)の順にカーソル位置を変更します。	
初期値		ポイントの位置が工場出荷時に戻ります。
設定完了		設定を保存して、手順3の画面に戻ります。
戻る		設定を破棄して、手順3の画面に戻ります。
↑/↓/←/→		選んだカーソル位置のポイントを上下左右に動かします。

メモ

- バックカメラが映し出す範囲は、バックカメラの取付位置と取付向きによって変わります。このため、片方のポイントがナビ画面の端に位置して、ナビ画面の上の本書の記載通りの位置でポイント調整ができない場合があります。できるだけ、バックカメラを車両中央に近く低すぎない位置に取り付けてください。

サブウーファーの設定を行う

本機にサブウーファーを接続したときは、サブウーファーを固定したあと、車の窓やドアを閉めた状態でサブウーファーの設定を行ってください。

1 低音を含む音楽を再生する

2 「メニュー」ボタンを押し、設定・編集→オーディオ設定にタッチする



3 サブウーファー設定にタッチする

オーディオ設定	
フェーダー/バランス設定	フェーダー0/バランス0
ラウドネス設定	OFF
イコライザー設定	FLAT
ハイパスフィルター設定	OFF
サブウーファー設定	ON
ソースレベルアジャスター設定	0dB

4 各項目を選び、設定を行う

サブウーファー設定	
サブウーファー出力	ON
位相	ノーマル
カットオフ周波数	80Hz
レベル	0

サブウーファー出力	ONに設定します。
位相	違和感が無く、低音の音量が大きく聞こえる方を選びます。
カットオフ周波数	適切な音質に調整します。
レベル	適切な音量に調整します。

AUXの設定を行う

本機に外部機器を接続した場合は、AUX設定を行ってください。

1 「メニュー」ボタンを押し、設定・編集→ソース別設定にタッチする



2 AUX設定にタッチする



3 入力設定にタッチする



4 ONにタッチする



センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了し、走行を開始すると本機は自動的に3Dハイブリッドセンサーの初期学習を行います。その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてください。

■ 走行開始後のエラーメッセージ

車速信号線が外れました。接続を確認してください。

車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。ピンクリード線(車速信号入力)の接続先および接続状態を確認してください。

3Dハイブリッドセンサーが正常に動作していません。本体の取付け角度や向きを確認してください。取付けが正常な場合は、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。

「ナビゲーション本体の取り付け」を参照して、取付角度が間違っていないか確認してください。取付角度が正しい場合は、内蔵センサーの故障が考えられます。販売店または修理受付窓口(沖縄県のみ沖縄サービス認定店)にご相談ください。

車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。

ピンクリード線(車速信号入力)を接続してください。接続すると、3Dハイブリッドで初期学習をやり直します。

■ その他のエラーメッセージ

測位不能になりました。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。

ナビゲーション本体の故障、劣化等が考えられます。販売店または修理受付窓口(沖縄県のみ沖縄サービス認定店)にご相談ください。

GPSアンテナが接続されていません。接続を確認してください。

GPSアンテナが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。

GPSアンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。販売店または修理受付窓口(沖縄県のみ沖縄サービス認定店)にご相談ください。

内蔵のセンサーが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。

内蔵のセンサーの故障が考えられます。販売店または修理受付窓口(沖縄県のみ沖縄サービス認定店)にご相談ください。

取付け位置の変化を検出しました。センサーの再学習を開始します。

本機の取り付け位置の変化を自動で検出した事をお知らせするメッセージです。